

2024年8月17日 聖霊降臨後第10主日 「小さな群れよ、恐れるな。」

本日福音書の箇所はイエスさまの厳しい裁きの宣言からはじまります。

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。」 Lk.12:49

このみことばを自分たちに都合良く解釈する過ちを、私たちは決して犯してはなりません。

先週の福音書であるルカ 12:32 で、イエスさまはこのように弟子たちに語られています。

「ちいさな群れよ、恐れるな」

「地上に火を投じる」という言葉は私にとって恐ろしい物です。1945年3月10日東京大空襲で、猛火の深川を逃げ惑い、背中一面ケロイドを負った、父の背中を思い起こします。

さらに1945年8月6日に広島・9日に長崎と、二発の原子爆弾がアメリカによって投下されました。破壊的な暴力はいつも、加害者の中に隠された、恐れによって動き出します。

ではアメリカ人のうち「太平洋戦争が終わるために、日本に原子爆弾の投下が必要だ」と考えている人たちは、どれくらいの割合でいるのでしょうか。

「アメリカが日本の広島と長崎に原子爆弾を投下したことは、正当だったと思いますか、それとも正当ではなかったと思いますか。」

この質問を、2020年7月に Pew Research Center が行いました。これは米国で最も信頼されている調査機関です。

「原爆投下は正当だった」と答えた米国成人の割合は 56%、正当ではなかったは 34%、わからない/回答しないは 10%でした。世代別では高齢層ほど「正当である」と考える割合

が高く、若年層は低くなっています。

今年 2025 年 6 月 2 日から 8 日にかけて、Pew がアメリカ人 5044 人に対して、電話とインターネットを使ってアンケートを実施しました。その質問は次のとおりです。

「ご存じのように、アメリカ合衆国は第二次世界大戦末期の 1945 年 8 月に、日本の都市である広島と長崎に原子爆弾を投下しました。振り返って 1945 年に日本の都市に原子爆弾を使用したことは正当だったと思いますか、それとも正当ではなかったと思いますか。

選択肢：①正当だった ②正当ではなかった ③どちらとも言えない／わからない（電話調査では「わからないですか」と確認）」

結果は正当だった **35%**／正当ではなかった **31%**／どちらとも言えない **33%**。でした。

年代別では

	正当ではなかった	正当だった	どちらとも言えない
18-29 歳	44%	27%	30%
30-49 歳	34%	29%	36%
50-64 歳	27%	40%	33%
65 歳以上	20%	48%	32%

政党別では

共和党系（共和党＋共和党寄り）	20%	51%	28%
民主党系（民主党＋民主党寄り）	42%	23%	34%

このようになります。これは現在もガザで行われ続けているイスラエル軍による残虐行為も、ウクライナで行われ続けている、ロシア軍の戦闘行為も同じです。暴力行為を働く側には、あくまでこれを「必要な力の行使」として受け止める人たちが多くいることを示唆します。

このように簡単に人間の都合により左右される判断は、決して正義と呼ぶには値しません。神の義、神さまが与えて下さる正義とは、この世界すべてに向けられている絶対的な愛です。神さまからの愛から、私たちを遠ざけるのは恐怖です。そして怒り悲しみ嫉妬が邪魔します。

今日のみことばの歌として選ばれたのは、教会讃美歌 406 番「つるぎもひとやも」です。この讃美歌は迫害を恐れずに、神さまに従う者の姿を歌っています。「ひとや」というこの言葉は、牢獄をあらわす昔の言葉です。馬屋が馬を入れて置く建物を意味するように、人屋は人を入れる建物です。獄（ひとや）は人の尊厳を奪われた状態です。

そしてこの讃美歌のメロディーには、聖カタリナという名前があります。彼女は1600年以上前、エジプトのアレクサンドリアという町にいた、とても賢く若い女性です。そこは世界最大の図書館がある第一級の文化都市でした。カタリナは哲学や科学、文学に通じる当時では珍しい教養人です。彼女は若くしてキリスト教に出会い、こう決意します。

「私にとって一番大切なのは、神との関係だ」

その信仰は、彼女の知識と結びつき、より深く、より確かなものになっていきました。

カタリナは知識と信仰を結びつけ、自分の信念を最後まで貫き通しました。伝説によれば天使がカタリナの遺体をシナイ山に運んだとされます。そこには6世紀に東ローマ皇帝ユスティニアヌス1世によって建立された聖カタリナ修道院が今も活動して、バチカンに次ぐ、

図書館があります。そこには貴重なイコンなどの初期キリスト教芸術、建築、輝かしい手書き写本など有名な所蔵品があり、修道院はユネスコの世界遺産となっています。

ここはユダヤ教の聖地であり、またムハンマドがここに匿われていた事から、イスラムの聖地でもあります。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の共通した聖地でありながらも、平和の中にそれぞれが共存する、まことに不思議な場所です。神による恵みと、聖霊によって満たされた、聖カタリナが愛して守った『知性』が、これを可能にしました。

今世界は恐ろしい混乱と分断の渦中にあります。嵐の中心にはポピュリズムがあります。これは「大衆の気持ちや不満に直接訴えて、支持を集める政治のやり方」で、「普通の人（国民）の声を大事にして、特別な立場にいる人やエリートよりも、国民のために政治をするべきだ！」という考えです。

国民の声を政治に届けやすくなり、大きな組織やお金持ちに偏らない、平等な政治が期待できますが、一方では人気を得るために、耳さわりのよいことだけを約束してしまう場合があります。さらに複雑な問題を「白か黒か」だけで判断してしまい、解決が難しくなることがあります。このアメリカ政治の現状を「反知性主義」と見る神学者もいます。

私たちは少数派になることを恐れず、神さまの愛を信頼して、平和の道を歩みましょう。神さまから与えられた私たちの知性と良心は、信仰によって強められて、私たちを解放へと導いて行きます。集団心理と一時の激情に流されず、固く信仰を守りましょう。

人知では到底計り知る事の出来ない神の平安が、キリストイエスにあって、あなたがたの思いと心とを守られますように。アーメン。